

令和 4 年度 西小学校 学校評価計画

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

豊かな創造力を持ち、思いやりのある心情、たくましい気力と体力、自主的精神に満ちた実践力のある児童を育成する。

(2) 具体目標

- よく考え、学ぶ子どもを育てる。(考える)
- 思いやりのある子どもを育てる。(思いやる)
- 心身を鍛える子どもを育てる。(鍛える)

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるための課題意識を持ち、その解決を図るために、知識・技能を確実に身に付け、活用して、自分の考えを持ち、他者の意見と比べながらよりよく考える、コミュニケーション力のある児童の育成をめざした学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進

- ① 実社会や実生活に関わる教材の提示や、児童の追究意欲を高める場面設定などにより、各教材等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、思考・判断・表現等を促す問いがもてるよう工夫する。
- ② 安心して考えを伝え合い、互いに高め合える学級集団の育成に日頃から努めるとともに、児童が探索的に学び合う活動等を工夫し、多様な考えに触れ、相互の関連付けや、共通点や相違点の整理など、教師が適切にコーディネートする授業展開を図る。
- ③ 主体的に学びに取り組む態度を育むため、本時の目標など焦点化した振り返りを言語により行わせる。また、教科や学習内容により、AI 型学習ドリル等を計画的・効果的に活用し、個に応じた基礎的・基本的知識・技能の定着を図る。

(2) 他者への思いやり、基本的生活習慣、規範意識、自己肯定感の育成

- ① 宮っ子心の教育、人権教育、体験活動、読書活動、児童生徒指導の充実により、他者への思いやりや規範意識を育む。
- ② 役割を分担し、協力して取り組む機会や異年齢交流を通して、年少者の世話をする機会等を充実させるとともに、様々な体験活動や読書活動を通じて、達成感や成功体験を得させることにより、自己肯定感を育む。
- ③ 「あいさつ」「返事」「時間」「生活リズム」「言葉遣い」を中心に、基本的生活習慣を身に付けさせる。

(3) 体力の向上と健康の保持増進

- ① 元気アップ教育の推進により、「体力の向上」、「保健教育」、「食育」、「安全教育」の4つの教育を一体的に捉えながら健康に生活できる心と体を育成する。
- ② 教科体育の充実を図り、基礎的な体力と運動やスポーツに親しむ態度を育成する。
- ③ 食育の推進を通して、望ましい食習慣を形成し、感謝の念を育成する。

(4) 教職員の資質能力の向上

- ① 自律的に学ぶ姿勢を持ち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を高めるとともに、学校作りのチームの一員として、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む専門的な力を身に着ける。
- ② 授業研究会を軸とした校内研修の充実により、相互に高め合い、学びあう協働的な同僚性を構築し、教職員の実践的指導力と専門性を向上させる。
- ③ 業務改善を推進することにより、ワークライフバランスのとれた働き方の実現を図り、教職員一人一人が、心身共に健康で、能力を最大限に発揮できるようにする。

(5) 地域とともにある学校づくりの推進

- ① 学校、家庭、地域が目標やビジョンを共有し、相互に連携・協働することによって、子どもたちの豊かな学びと成長を実現する。
- ② 学校園における小中の連携と、義務教育9年間を一体とした指導によって、学校生活へ円滑に適応

させ、学力を保障する。

- ③ 学校及び教師が担う業務の明確化・適正化に努め、学校、家庭、地域が適切な役割分担のもと、相互に連携・協力を推進する。

[一条地域学校園教育ビジョン]

「基本をしっかり身に付け、地域に生きる子どもを育む一条地域学校園」

4 教育課程編成の方針

- 1 教育基本法及び学校教育法その他の法令並びに学習指導要領、宇都宮市立小中学校の教育課程及びその編制基準に従い、教育課程を編成する。
- 2 うつのみや学校マネジメントシステム、学習内容定着度調査等の各種調査結果やデータを効果的に活用し、児童の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して、特色をもった教育課程を編成する。
- 3 学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成していくことができるよう、教科横断的な視点からの教育課程の編成に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【学校運営】 よりよい学校生活を築くための課題意識を持ち、その解決を図ろうとする児童の育成
- 【学習指導】 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした指導方法の工夫
- 【児童生徒指導】 規範意識を高め、自主的・自発的に行動し、自己肯定感を育む指導の育成
- 【健康（体力・保健・食・安全）】 基礎体力の向上と望ましい食習慣の形成をめざした指導の実践

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所には下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
児童の	<p>A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「児童は授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」 児童の肯定的回答 ⇒85%以上</p>	<p>確かな学力を育むため、知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力、及び学びに向かう力等を養うなどして、学習指導を充実させる。</p> <p>① 「宇都宮モデル」を活用した授業改善を推進する。 ※「宇都宮モデル」とは、学習課題を「はっきり」、課題への取り組みを「じっくり」、まとめを「すっきり」という授業のスタイルのこと</p> <p>② 「西小よい子の学習の約束」を活用し、基本的な学習態度の指導を徹底するとともに、児童が積極的に自分の考えを発言できる雰囲気をつくる。</p> <p>③ 家庭学習の習慣化に向け、家庭学習強化週間の設定を行う。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は93%であり、数値指標を上回った。また、保護者の肯定的回答は昨年度よりも2.5%上昇し、数値指標を上回った。学校課題における授業研究会を中心に授業改善に取り組んできたことで、友達の考えをよく聞いたり、自分の考えを進んで話したりしようとする学習態度が身に付きつつある。日頃の授業の様子からは、学習用具がそろわない、授業中の私語等、学習に向かう姿勢において課題がある。</p> <p>【次年度の方針】 「宇都宮モデル」の徹底 「学習の約束」や「授業のきまり」などについて学習態度を身に付けさせるべく、基礎基本の徹底を図る。 また、家庭学習強化週間などを設け、家庭学習の習慣化に向けた取り組みを家庭に発信していくなど継続指導していく。</p>

姿	<p>A 2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 児童の肯定的回答 ⇒90%以上</p>	<p>思いやりの心を育てるため、「宮っ子心の教育」を充実させるなどして、豊かな心を育む教育を推進する。</p> <p>① 自分との関わりで道徳的価値について多面的・多角的に考え、話し合う「道徳科」の授業づくりに取り組む。</p> <p>② 児童のよさや努力等を積極的に認め励まし、学級全体に広めたり、家庭に知らせたりする。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は、88.2%で昨年度より0.1%上昇したが数値指標を下回った。道徳科の授業では、相手の立場を考えたり気持ちを想像したりしながら意見交換を積極的に行い、豊かな心を育むことにつながった。また、各学級で日頃から互いを認め合う関係性の構築に向けた取り組みを実践するなかで、自他の良さに気づき、相手のよい部分に目を向けたり、思いやりのある行動をしたりすることにつながっている。その反面、相手を傷つける意図はなくても、軽はずみな言動や行動で相手を傷つけてしまうケースが時折見られるため、相手の気持ちを想像させながら指導していく必要がある。</p> <p>【次年度の方針】 教員間で積極的に児童の思いやりのある行動について情報交換したり、学級内で互いのよさについて話し合ったりすることで認め励ます機会を設け、児童同士の信頼関係を高めたり、児童一人ひとりが自己有用感を持てるようにしていく。他者とのかかわりの場面で、指導を要する場合には、引き続き他者意識の視点を大切にしながら丁寧に指導をしていく。</p>
	<p>A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 児童の肯定的回答 ⇒85%以上</p>	<p>規範意識を育むため、児童指導及び「道徳科」の授業を充実させるなどして、豊かな心を育む教育を推進する。</p> <p>① 「西小よい子の一日」を意識して生活できるよう指導するとともに、自分の生活を振り返る機会を設定し、定着を図る。</p> <p>② 児童会や委員会が主体となり、生活のきまりについて啓発する場を設定する。</p> <p>③ 年度初めに年間を通した生活のきまりやマナーを設定し、時期に応じて強化項目を決め、校内巡回指導をしながら定着を図る。学校生活における指導の方向性について全教職員で徹底を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は、87.0%で数値指標を上回った。学校生活全般のきまりやマナーを明記している「西小よい子の一日」や「月別の生活目標」をベースに、全教職員で指導の方向性を合わせながら指導に当たった。また、委員会活動では、それぞれの立場で児童自身が必要と感じたきまりやマナーについて啓発を行った。挨拶などのマナーの意識の高まりが見られる反面、時間の意識や身だしなみなど徹底できていない部分も見られている。</p> <p>【次年度の方針】 児童会や委員会活動の活性化や教職員の指導の方向性の徹底を継続しつつ、児童の生活の様子に合わせて「西小よい子の一日」を柔軟に見直していくことで、児童自身が積極的にきまりやマナーを守る環境づくりをしていく。</p>

<p>A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 教職員肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>自分から進んで気持ちのよいあいさつができるようにするため、あいさつ運動を充実させるなどして、豊かな心を育む教育を推進する。</p> <p>① 児童会や各学年代表児童によるあいさつ運動を展開し、自分から進んで挨拶に取り組む実践を積ませる。</p> <p>② 学級での授業開始・終了時や特別教室での入退室時など、時と場面に応じたあいさつの指導を徹底する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は昨年度と比べて1.5%下がり93.5%となったが、教員の肯定的回答は、100%で数値指標を上回った。さらには保護者や地域住民の肯定的回答も大幅に増加している。代表委員児童が一条中生徒と合同であいさつ運動を実施したり、学年ごとに立哨してあいさつ運動をしたりなどあいさつ運動の強化により、あいさつの輪が広がっている。また、学級内だけでなく様々な場面で多くの教師からあいさつの仕方について指導を受けることで、児童一人ひとりが時と場に応じたあいさつの仕方について理解するきっかけとなった。</p> <p>【次年度の方針】 全職員による時と場面に応じたあいさつ指導の徹底や、児童会や一条中、PTA等による様々な形態でのあいさつ運動の充実により、誰もが自分から気持ちのよいあいさつができる環境づくりをする。</p>
<p>A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>やり遂げる達成感を味わわせるため、学校行事や各教科の指導の工夫に取り組む、失敗や困難を乗り越えて挑戦し続けるたくましさを涵養する。</p> <p>① 「挑戦する」「がまんする」「あきらめない」について学校行事等を通して体験できるように指導する。</p> <p>② 各教科の学習において、既習事項をもとに解くことができる発展的な課題に取り組ませる授業を仕組む。</p>	<p>教職員の肯定的回答は100%であり、数値指標を大きく上回った。目標をきちんと立てさせること、見直しをもって解決に当たらせ、振り返りを行うことなどを意識して指導にあたってきた。</p> <p>【次年度の方針】 行事、学習などすべてにおいて、児童自身に目標を持たせ、終わった後には、振り返りをさせ、次の活動の目標につなげる意識をもたせていく。この指導のサイクルを意識して教育活動を行っていき、児童が目標に向かって頑張るということを、体験を通して学べるように指導していく。</p>
<p>A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 児童の肯定的回答 ⇒90%以上</p>	<p>心身ともに健康で、たくましい児童を育てるため、「元気アップ教育」を充実させるなどして、健康で安全な生活を実現する力を育む教育を推進する。</p> <p>※「元気アップ教育」とは、「体力向上」「保健教育」「食育」「安全教育」について小中9年間を通して取り組む教育活動のこと。</p> <p>① 教科体育における運動量の確保や元気っ子チャレンジへの参加やがんばりカードの積極的活用を通して体力を向上させる。</p> <p>② 養護教諭や学校栄養士と連携した授業に取り組み、健康への関心を高める。</p> <p>③ 避難訓練や地域安全マップの作成をはじめ、学校教育全体を通して、危険を予測し、自分の命は自分で守ることの大切さについて指導する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的割合は昨年度89.9%から92.9%に上昇し、数値指標を達成した。教科体育時の補助教材や頑張りカードの活用、朝わくや縦割り班活動等の遊びの充実により運動量の確保につながった。</p> <p>また、専門性を生かした授業により、この期に及んで手洗いの習慣が身に付いたり、食への関心が高まったりした。</p> <p>今年度は新たに竜巻やJアラートの避難訓練を実施し、不測の事態に備える意識が高まった。また、第3学年の総合的な学習の時間で安全マップを作成にあたり、学区内を安全危険の意識をもとに見て回ったことで、交通安全の意識が高まった。</p> <p>【次年度の方針】 運動委員会等を中心に、児童が自発的に運動する機会を企画することで、外で遊んだり体を動かしたりすることに関心をもたせるようにしていく。</p>

<p>A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 保護者の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>自分のよさや頑張りに気付かせ、自己有用感を高めるようにするため、「宮・未来キャリア教育」の充実を図るなどして、将来への希望と協働する力を育む。</p> <p>① 特別活動において、一人一人の持ち味を生かした役割分担を行う。</p> <p>② 総合的な学習の時間・生活科・特別活動などを中心に、活動の振り返りを確実にを行い、自分のよさや成長に気付かせる指導を行う。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は 82.6%であり、数値指標を上回った。学校行事や授業において、目標をもたせ、自分の学びを振り返る活動を行ってきた。</p> <p>【次年度の方針】 自分自身の役割に責任をもって取り組めるように児童を支援するとともに、頑張り認め励まし、発信できるように努める。また、生活科・総合的な学習の時間で「宮・未来キャリア教育」に深く関連する単元について、学習の振り返りを児童の夢や目標に繋げられるよう指導を工夫していく。学年便り等で発信し、家庭との連携を図っていく。</p>
<p>A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 児童の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるため、英語教育の充実を図るなどして、「グローバル社会」に対応する教育を推進する。</p> <p>① ALT を活用し、ネイティブの英語に触れる機会を十分に確保する。</p> <p>② 外国語の授業では、英語によるやりとりを中心とした授業を展開し、英語で伝え合う楽しさを味わわせる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 88.2%であった。本校は、高学年の週 1 時間を除き、すべて ALT との T.T による授業であるため、英語によるコミュニケーション中心の授業が展開されている。</p> <p>【次年度の方針】 ALT との連携を密にし、児童が積極的に英語でコミュニケーションを図れる授業展開を工夫し、英語教育の充実を図る。</p>
<p>A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 児童の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>宇都宮の伝統や文化に愛情と誇りをもてるようにするため、郷土への愛情を育む学習の充実を図るなどして、郷土愛を醸成する教育を推進する。</p> <p>① 3 学年社会科における郷土の学習や「地域が先生」における「ふくべ細工」「百人一首」等の学習活動の充実を図る。</p> <p>② 総合的な学習の時間における「宇都宮学」の学習を通して、郷土愛を育む。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 84.0%であり、数値指標を上回った。「宇都宮学」の学習が始まったことに加え、「地域が先生」における体験的な学習活動も充実しており、郷土宇都宮への愛情を育むことができている。</p> <p>【次年度の方針】 「宇都宮学」の学習や「地域が先生」、6 年生の総合的な学習「インターンシップ」などの体験学習を通し、宇都宮への郷土愛を育ませる授業を展開する。また、学校便り・学年便り等で保護者に周知する機会を設ける。</p>
<p>A 10 児童は、ICT 機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 児童の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>情報活用能力を身に付けさせるため、情報活用能力を育成する教育の充実を図るなどして、「情報社会」に対応する教育を推進する。</p> <p>① 道徳や学級活動における情報モラル教育を確実に実施する。</p> <p>② ICT 機器や図書、新聞等を活用した授業を展開し、児童が必要に応じて情報手段を活用できるよう指導する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 87.6%であり、数値指標を上回っている。情報モラル教育については、道徳等において指導をしてきた。GIGA スクール構想により、タブレットを使用した学習が増え、授業の中で活用し家庭に持ち帰るなど計画的に使用していた。高学年において児童が ICT 機器を自ら操作するスキルを身に付け、学習活動を展開できている。</p> <p>【次年度の方針】 デジタル・シティズンシップ教育の推進を図る。単元に応じて情報機器や図書資料など使い分けると共に、司書教諭や ICT 支援員との連携を図り指導していく。</p>

<p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 「児童は誰に対しても思いやりの心をもっている」地域住民の肯定的回答 ⇒85%以上</p>	<p>高齢者への感謝や尊敬の心を育てるため、高齢者とふれあう機会の充実を図るなどして、「少子高齢社会」に対応する教育を推進する。</p> <p>① 高齢者を講師として招き、高齢者の知恵や人生経験に学ぶ機会を設定する。</p> <p>② 高齢者を学校行事に招待したりするなどして、高齢者とふれあう機会を設定する。</p> <p>③ 各学年における授業や、「ありがとう集会」等、感謝の気持ちをもって参加できるよう指導する。</p>	<p>【達成状況】 地域住民の肯定的回答は93.8%であり、数値指標を上回った。低学年によるさつまいもの苗植えや収穫、通年の読み聞かせボランティアなど、多くの高齢者をお迎えし、指導をいただいた。お世話になった方々に対してお礼の気持ちを込めた手紙を作成したり、ベストフェスタ内の「ありがとう集会」にて、企画委員が主体となり児童全員で感謝を伝えたりすることができた。</p> <p>【次年度の方針】 低学年が実施する「昔遊び」など、高齢者から学んだり交流を持ったりする機会を充実させ、高齢者への感謝や尊敬の心を育てる機会としていく。</p>
<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 児童の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>「持続可能な社会」について関心を持つようにするため、各教科の学習を通して、「持続可能な社会」に対応する教育を推進する。</p> <p>① 総合的な学習の時間において、環境や国際理解、食をテーマとして地域の学習素材を活かし指導する。</p> <p>② 総合的な学習の時間においては「持続可能な社会」に関する各教科の単元との関連も図りながら教科横断的な学習を展開する。</p> <p>③ 節水や節電、ごみの分別など、日常生活において環境問題を意識した教育活動を実践する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は84.0%であり、数値指標を上回った。社会・理科・家庭科の学習において指導し、学校生活においてもごみの分別等は日常的に行っている。</p> <p>【次年度の方針】 社会に目を向けさせ、児童の興味関心を引き出させるよう努めるとともに、学習活動においては、「SDGs」など具体的な知識の習得を図る。また日常生活において、環境に配慮した取り組みなどの実体験を意識した教育活動を設定する。</p>
<p>B1 児童は、異年齢の友達と遊んだり、年少者をいたわりながら活動したりしている。</p> <p>【数値指標】 「私は、ほかの学年の友達と仲よく遊んだり、協力して活動したりしている。」児童の肯定的回答 ⇒85%以上</p>	<p>他者への思いやりの心や自己肯定感を育むため、縦割り班による活動を充実させて、学年や立場に応じた態度で活動できるようにする。</p> <p>① 縦割り班による清掃活動において、上級生が下級生の世話をしながら清掃に取り組めるよう指導する。</p> <p>② わくわくタイム、クラブ、委員会活動などの異学年交流の場で、学年に応じた役割を与え、異年齢の友達と積極的に交流が図れるよう指導する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は、85.8%で数値指標を上回った。縦割り班活動による清掃やわくわくタイムの実施が、日常的に行われ、それぞれの学年の応じた役割を理解し、積極的にかかわる様子が見られている。休み時間にも、上級生が下級生とともに遊ぶ姿が見られている。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き異学年交流の場を積極的に設けていく。その際には、上級生に対して役割を与え、立場に応じた態度が十分に身に付けられるようにしていく。</p>

目 指 す 学 校 の 姿	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>特別な支援を必要とする児童の様々な教育的ニーズに対応するため、実態に応じて、指導内容や指導方法を工夫するなどして、適切な指導及び必要な支援を行う。</p> <p>① かがやきルーム指導員と学級担任が連携し、かがやきルームにおける指導を充実させる。</p> <p>② 特別な支援を必要とする児童にとっても、わかりやすい指示や教材を工夫して授業を展開する。</p> <p>③ 教育支援委員会やケース会議を開き、共通理解のもと指導にあたり、必要な場合は関係諸機関との連携を図り指導する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%であり、数値指標を大きく上回った。特別な支援を必要とする児童への指導内容や指導方法などについて、関係諸機関との連携を図りながら、ケース会議を重ね、共通理解のもと必要な支援を行ってきた。</p> <p>【次年度の方針】 関係機関との連携を図りながら、ケース会議など職員間の共通理解のもと、全職員が統一した指導・支援を行う。 かがやきルームについては、年度途中であっても見直しを行い、終了や入級を柔軟に実施する。</p>
	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 保護者の肯定的回答 ⇒85%以上</p>	<p>「西小いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ根絶に向け、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、組織的な対応を行うなどして、学校全体でいじめ防止の取組を実践する。</p> <p>① 意識の高揚を図るため、いじめ根絶集会の実施や「ふわふわ・ちくちく言葉」等の日常的な言葉の指導、未然防止につながるような掲示物の作成。(未然防止)</p> <p>② 「親子で考える道徳」の実践を通して、道徳的価値について家庭と連携して指導していく。</p> <p>③ 学校生活アンケートやQ-U調査結果をもとにした教育相談を実施するとともに個に応じた指導を実施する。(早期発見・早期対応)</p> <p>④ 同僚や管理職への「報・連・相」、「いじめ等対策委員会」の開催などを確実に行い、情報を共有して、適切に対応する。(組織的な対応)</p> <p>⑤ いじめ根絶に向けた取り組みを便りやHPを通じて家庭や地域に情報発信し、連携して児童を見守る体制の構築していく。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は、昨年度と比較して10.4%上昇して86.7%となり、数値指標を上回った。今年は相手の気持ちを考えた言葉掛け「ふわふわ言葉とチクチク言葉」をテーマにいじめゼロ強調月間を2回実施した。いじめ根絶に向けて、教職員それぞれがいじめは許されない行為だということを指導したり、委員会による啓発の場面を設定したり、学級で友達への言葉掛けについて話し合っって掲示物を作成したりなど、児童主体の活動を多く盛り込んだことで、児童自身のいじめ根絶に向けた意識の高まりがみられ、いじめ発生件数も減少している。また、年間に2回設定した教育相談週間には、特別日課を設定し、学級担任が一人ひとりの児童と十分に話し合い、悩みに寄り添う機会となった。</p> <p>【次年度の方針】 日常的な言葉や行動に対する指導や教育相談の充実、児童会や委員会等児童主体で行ういじめゼロ強調月間等によって、引き続き学校全体でいじめを許さない雰囲気づくりに努める。さらには、学校での取り組みをお便り等で積極的に家庭や地域に啓発し、連携して児童を見守る体制を構築する。</p>

<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 「先生方は一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 保護者の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>不登校の未然防止、早期発見、早期対応、組織的な対応に努める。</p> <p>① どの児童にとっても自分の居場所となる温かい雰囲気の学級経営を行う。(未然防止)</p> <p>② 担任は児童・保護者に積極的にかかわり、普段からの信頼関係づくりに取り組む。(未然防止・早期発見)</p> <p>③ 児童指導連絡会、欠席状況共有シートや保健室への来室状況などにより児童の状況を把握し、早期に支援の検討を行う。(早期対応・組織的対応)</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は、昨年度と比較して12.6%上昇して93.0%となり数値指標を上回った。教職員が児童の頑張りを目を向けて賞賛したり、児童同士がよいことを発表しあったりすることで、互いに認め合う温かい学級経営につながった。毎月行われる児童指導連絡会や欠席状況共有シート、保健室への来室状況を教職員同士で共有することで、児童の困り感に早期に目を向けて対応にあたっていくことにつながっている。児童が安心して登校できる環境づくりをするために、家庭との綿密な連絡を心がけ、対応に当たっていく必要がある。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き温かい学級経営を行っていくことに加え、児童の些細な変化についても気になることは積極的に情報交換し、児童の困り感に寄り添うきっかけとしていく。さらには、児童の様子をこまめに家庭に伝えて連携を図っていくことで、未然防止や早期解決につなげていく。</p>
<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 「教職員は特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて適切な支援をしている。」 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>外国人児童が円滑に学校に編入学し、充実した学校生活を送ることができるよう、外国人児童の受け入れ体制を整備する。</p> <p>① 個性を認め合う受容的な学級づくりを行う。</p> <p>② 人権教育を充実させる。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%であり、数値指標を大きく上回った。</p> <p>人権教育の研修を行うとともに、個性を認め合う受容的な学級づくりに取り組むことができた。</p> <p>【次年度の方針】 児童の実態に応じて、適切な支援ができるよう研修を実施する。外国人児童が編入学する場合、日本語指導者等と連携を図る。児童が安心して学校生活を送れるよう、学級の体制を整える。</p>
<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 「私は、今の学校が好きです。」 児童の肯定的回答 ⇒90%以上</p>	<p>児童が自己のよさを生かせるよう、創意工夫した教育活動に取り組む。</p> <p>① 児童会活動を工夫することで、楽しく異年齢交流できるようにする。</p> <p>② 児童の思いや願いを実現できるような学級活動を工夫し、全員が学級への所属意識を持てるようにする。</p> <p>③ 教職員は、児童と共に考えたり遊んだりするなど、児童と向き合う時間を大切に、信頼関係を構築する。</p> <p>④ 朝わくの回数を増やし、楽しく学校生活をスタートできるようにする。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は91.1%で数値指標を上回った。昨年よりもさらに1.2%上昇した。</p> <p>縦割り班活動を工夫し、楽しく異学年交流ができた。児童の願いを生かした学級目標を立て、お楽しみ会等の集会活動を実施して所属意識を高めた。教職員も児童と共に遊び信頼関係を深めた。朝わくについては児童が楽しみにしていて、元気に遊んだ。</p> <p>【次年度の方針】 児童の思いや願いを生かした児童会活動や学級活動の内容を工夫して児童主体の活動を増やしていく。朝わく等は回数を確保し、児童と教職員で触れ合うとともに活気ある生活を送ることができるようにする。</p>

<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 児童の肯定的回答 ⇒90%以上</p>	<p>教職員の授業力を高めるため、校内研修を充実させるなどして、実践的指導力と専門性を向上させる。</p> <p>① 「宇都宮モデル」を活用した一人一授業の実施を通して、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を視点とした授業改善に取り組む。</p> <p>② 分かる授業のための教材研究を行い、学び合いを重視した授業を行う。また、教職員同士授業参観の機会を設けるなど、授業の質を上げる。</p> <p>③ ミニ漢字・計算テスト等を計画的に実施し基礎基本を確実に定着させる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 98.2%であり、数値指標を上回った。学校課題での授業研究を中心に、授業改善に取り組み、学力向上を図ってきた。</p> <p>【次年度の方針】 宇都宮モデルを活用した授業を意識し、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を視点とした授業実践を継続する。また、かがやきルーム、習熟度別学習やチームティーチングなど、個に応じた学習支援を継続する。また、漢字 10 問テストや教科書付属テスト等を使用し、基礎基本の定着を図っていく。</p>
<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>学校の組織力を強化し、児童への指導・支援の充実を図るため、多様なスタッフの専門性を発揮できるようにする。</p> <p>① 養護教諭や学校図書館司書、学校栄養士業務の専門性を生かした授業を実施する。</p> <p>② インターネットバンキングや学校徴収金システム等の活用により業務の負担軽減を行う。</p> <p>③ SCM を中心として、スクールカウンセラー等と連携することで、児童指導の充実に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%であり、数値指標を大きく上回った。全教職員がそれぞれの立場で、専門性を生かして学校経営に参画している。</p> <p>【次年度の方針】 さらに専門性を生かして、学年の系統性を考慮した授業を計画的に実施していく。業務の負担軽減についても取り組む。教職員間で情報共有を図り、多様な専門スタッフの専門性を生かし、チームで学校運営に取り組んでいく。</p>
<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 ⇒85%以上</p>	<p>教職員の健康と安全を確保し、質の高い教育活動を維持していくため、勤務時間に対する意識改革や具体的な業務軽減策の実施などを通して、働き方改革を推進する。</p> <p>① 毎月、リフレッシュデーを設定するとともに、金曜日を定時退勤の日として超過勤務時間の削減に努める。</p> <p>② 学級事務支援スタッフや担任以外の教職員と担任が連携し、学級事務の負担軽減につなげる。</p> <p>③ 教材研究等を行うための放課後の時間を確保するために、日課の見直しをするとともに、時間を厳守して生活にメリハリをつける。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 100%であり、数値指標を大きく上回った。教職員全員が働き方改革に取り組んでいる。学級事務支援スタッフや担任以外の教職員との連携が、負担軽減に繋がっている。</p> <p>【次年度の方針】 教職員で声を掛け合い、定時に退勤する雰囲気を作る。業務の効率化について意見を出し合い、適正な勤務時間とする。</p>

<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>児童の学校生活適応と学力保障を目指し、小中教職員の緊密な連携に基づく指導を充実させるなどして、地域学校園を生かした学校運営を推進する。</p> <p>① <u>地域学校園あいさつ運動、お弁当の日、クリーンアップ活動、西地区大運動会で交流を進める。</u></p> <p>② 教職員間の交流を図るため、小中一貫の日を設け、研修会や会議等を実施する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%であり、数値指標を大きく上回った。今年度は、あいさつ運動や運動会等の学校行事の他に、新たに夏休みの校内清掃やクリーンアップ in 西などのボランティア活動で交流を深めた。</p> <p>【次年度の方針】 小中の連絡を密にし、児童間の交流を充実させる。地域学校園の研修では意見を出し合い連携を図っていく。</p>
<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 「学校は家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 保護者の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>創意ある教育活動を展開するために、専門性のある人材を活用したり、体験的な学習活動を取り入れたりするなどして、地域の教育力を活かした特色ある学校づくりを推進する。</p> <p>① 専門的な知識のある方を講師とする教育活動「地域が先生」等を設定し、児童の豊かな感性を育てる。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は93.6%であり、数値指標を大きく上回った。コロナ禍でもできる活動を選択し「地域が先生」を全学年で実施した。児童の感性を育てる体験的な学習活動が展開された。</p> <p>【次年度の方針】 地域の教育力を生かした学習活動は本校の特色である。コロナ禍でも活動の工夫を工夫して実施していく。</p>
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「学校は家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 地域住民の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>家庭・地域とのつながりを強化できるように、地域とのつながりを深めながら、地域の教育資源を有効に活用できる体制づくりを促進するなどして、学校運営を行う。</p> <p>① 各種便りや学校ホームページなどを活用し、学校の様子を積極的に発信する。</p> <p>② 学習支援や環境整備、児童の健全育成・安全確保などについて、「西小魅力ある学校づくり地域協議会」や地域の諸団体との連携を強化する。</p> <p>③ 企業の出前授業を有効に取り入れ、教育活動の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 地域住民の肯定的回答は80%であり、数値目標と同じである。今年度は地域合同運動会、インターンシップ、ベストフェスタ、クリーンアップなど、昨年より地域や家庭と連携した活動を実施してきた。学校支援ボランティアによる授業支援や環境整備など、家庭・地域の協力を得た活動も展開できたことに感謝したい。企業の出前も積極的に取り入れてきた。教育活動の様子は、学校HPなどで発信している。</p> <p>【次年度の方針】 地域の教育資源を活用した学習活動について積極的に発信していく。西小魅力協との連携を図り、地域や保護者から多くの協力を得られるよう体制作りを工夫する。企業の出前授業も有効活用する。</p>
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 ⇒90%以上</p>	<p>児童及び学校を利用する全ての人が安全に過ごせるように、施設・設備の定期的な安全点検の実施などを通して、教育環境を整備する。</p> <p>① 月1回安全点検を確実に実施し、修繕や改善が必要な箇所については、速やかに対応する。</p> <p>② 児童が多く使う箇所については、指導者が日常的に点検を行う。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%であり、数値指標を大きく上回った。毎朝校舎内外を複数で見回り、毎月全教職員で安全点検を確実に行っている。市教委と連携し可能な限り修繕する等、速やかな対応をしてきた。</p> <p>【次年度の方針】 確実な安全点検を継続するとともに、事務職員や学校業務、機動班と連携し、速やかに修繕をする。</p>

<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 「児童はICT機器や図書等を学習に活用している。」 教職員の肯定的回答 ⇒80%以上</p>	<p>情報化社会で生きる資質・能力を育むため、ICT機器や図書等を積極的に活用するなどして、授業を充実させる。</p> <p>① 情報主任を中心に、授業で活用できるデジタル教材等について情報を共有する。 ② 図書館司書を中心に、学習内容に応じた図書資料等を整備する。 ③ 発達段階に応じた学校図書館の利用方法について指導する。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%であり、数値指標を大きく上回った。情報主任や学校図書館司書を中心に、学習に必要な資料の整備に努めてきた。</p> <p>【次年度の方針】 タブレットの導入に伴い、図書資料とデジタル教材の有効活用法などについて、引き続き研修などを通し個々がよりよく活用していけるよう努める。</p>
<p>B2 教職員は、児童一人一人のよさをほめて伸ばす指導を行っている。</p> <p>【数値指標】 「先生方は、わたしのいいところを認め、ほめてくれる。」 児童の肯定的回答 ⇒90%以上</p>	<p>自己肯定感を育むため、「ほめて伸ばす指導」を充実させるなどして、すべての児童が自信と誇りのもてる学校づくりを推進する。</p> <p>① 「多読賞」「きりり賞」等を通じてよい行いを賞賛する。 ② 様々な学習の場面で具体的に児童をほめる機会を設け、全員の児童をほめるようにする。 ③ 児童の頑張りやよい行いを、家庭にも連絡する。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は、94.7%で数値指標を上回った。「多読賞」「きりり賞」のほかに、今年は「おそうじ名人賞」を新たに設定し、児童の頑張りや学校全体で認める機会を増やした。学級担任に限らず、他の教職員や友達からも賞賛されることで、積極的な行動や規範意識の向上に大きくつながっている。学級内では当番や係活動の充実により、自分の得意なことを生かした活動を増やしていくことで、自己有用感の向上につながっている。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き校内表彰の実施や積極的な児童一人ひとりへの賞賛の言葉掛け、児童が自信をもって取り組める活動の充実を努め、伸び伸びと学校生活を送れるようにしていく。</p>
<p>本校の特色・課題等</p> <p>B3 児童は、地域や学校のために積極的に働いている。</p> <p>【数値目標】 「児童は地域や学校のために積極的に働いている。」 地域住民の肯定的回答 ⇒85%以上</p>	<p>役割を果たす充実感や社会貢献への喜びなどを味わわせるため、地域行事やボランティア活動を体験させるなどして、社会に参画し、協働する力を育む教育を推進する。</p> <p>① 「クリーンアップ in 西」を実施し、校外ボランティア活動を体験させる。 ② 地域や学校のために働く「子どもボランティア」活動を推進する。 ③ 総合的な学習の時間における地域単元「ひまわりプロジェクト」において、地域の一員として自分にできることを考えさせ実践させていく。</p>	B	<p>【達成状況】 地域住民の肯定的回答は、87.5%であり、数値目標を上回った。今年度は「クリーンアップ in 西」を実施し校内外のボランティア活動を体験できた。また、校内において「子供ボランティア活動」に多くの児童が進んで参加し、仕事を見つけて働こうとする姿も見られた。</p> <p>【次年度の方針】 地域のために働く「クリーンアップ in 西」や学校のために働く「子供ボランティア活動」の意義を道徳や学級活動等の時間に考え、学年に応じたボランティア活動に取り組めるようにする。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

<p>【宇都宮市小学校全体との比較】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「A5児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」「A7児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。」については、市と比較しても教職員と保護者の肯定的割合が高い。今年度は3年ぶりにインターシップを実施し、体験を通して学んだことを「ベストフェスタ in 西」で保護者に発信することができた。 ・「小中一貫・地域学校園」の取組について、市と比較して教職員・保護者・児童の肯定的割合が高い。中学生が小学校に来て
--

あいさつ運動をしたり、運動会、清掃活動等をする機会が昨年より増えて、交流を深めることができた。

・「A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」については、市と比較しても教職員の肯定的割合が高い。教職員にチーム力があり、全教職員の連携が業務の負担軽減に繋がっている。

・地域住民の肯定的割合が市と比較して全体的に低い。地域協議会等で教育活動をこれまで以上に発信していく。また、登下校の見守り等、家庭や地域に協力を仰ぎ連携を強化していく。

【学校経営】

・「A17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。」については児童の肯定的回答が数値指標を上回った。児童の思いや願いを生かした児童会活動や学級活動に積極的に取り組んできた。縦割り班活動を増やし、朝わくの時間を確保することで、児童間の交流や教職員と児童の交流を図ることができ、楽しく活動していた。

・「A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」「A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」については、教職員の肯定的回答が数値目標を大きく上回った。全教職員がそれぞれの立場で専門性を生かして学校経営に参画している。また、担任以外の教職員との連携が業務の負担軽減に繋がっている。

○「A21 学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」については、教職員の肯定的回答が数値目標を大きく上回った。今年度は、例年行っているあいさつ運動の他、新たに校内清掃や「クリーンアップ in 西」等に多くの中学生が参加し交流を深めた。

・「A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。」については、保護者の肯定的回答が数値目標を大きく上回った。「地域が先生」を実施し、児童の感性を育てる体験的な学習が展開された。「A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。」については、地域住民の肯定的回答が数値目標と同じであった。今年度は、地域合同運動会、インターンシップ、ベストフェスタ、クリーンアップ等を家庭・地域と連携・協力して実施した。また、企業の出前授業も有効活用した。

・「B3 児童は、地域や学校のために積極的に働いている。」については、地域住民の肯定的回答が数値目標を上回った。今年度は「クリーンアップ in 西」を実施し校内外の清掃活動を体験できた。校内で実施している「子供ボランティア活動」にも多くの児童が進んで参加した。

【学習指導】

・A7「児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。」について、保護者の肯定的回答は 82.6 ポイントであり、数値目標を下回っていた昨年度に比べ、10.7 ポイント上昇した。また児童においても目標数値を上回っていることから、今年度実施できた「ベストフェスタ in 西」「クリーンアップ活動」などの学校行事や授業において、目標をもたせ、自分の学びを振り返る活動を行ってきたことや、自分自身の役割に責任をもって取り組めるように児童を支援し、頑張りを認め励まし、保護者へも発信できるように努めてきた成果であると捉えた。今後も生活科・総合的な学習の時間で「宮・未来キャリア教育」に深く関連する単元について、学習の振り返りを児童の夢や目標に繋がられるよう指導を工夫したり、キャリアパスポートを有効に活用したりしていく。また学年便り等で発信し、家庭との連携を図っていく。

・A18「教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな授業を行い、学力向上を図っている。」について、児童の肯定的回答は 98.2 ポイントであり、昨年から 3.2 ポイント上昇し数値指標を上回った。また保護者の肯定的割合は、昨年と比較し、12.4 ポイント上昇していることから、学校課題に基づく授業改善や授業の質の向上、個に応じた指導、専門機関や教職員間の連携など、日々の学校の取組が家庭で認識された成果であると思われる。今後も引き続き、家庭へ様々な取り組みについて細やかに情報を発信していくことに加え、教職員の授業力の向上を図るべく校内研修の充実を図っていく。

【児童・生徒指導】

・A2「児童は、誰にでも思いやりの心をもって優しく接している。」について児童の肯定的回答は 88.2 ポイントで数値指標を下回った。道徳科の授業の充実や各学級で児童同士が互いに認めあえるような取り組みの実践を積み重ねていくことで、互いに認め合い思いやりのある行動を生むことにつながっている。その反面、相手を傷つける意図はなくても、軽はずみな言動や行動で相手を傷つけてしまうケースが時折見られるため、さらなる道徳教育の充実や日常的に相手の気持ちを想像させながら指導していく必要がある。

・A3「児童は、きまりやマナーを守って生活をしている」について児童の肯定的回答は、87.0 ポイントで数値指標を上回った。学校生活全般のきまりやマナーを明記している「西小よい子の一日」や「月別の生活目標」をベースに、全教職員で指導の方向性を合わせながら指導に当たった。また、委員会活動等の児童が啓発する機会を多く設けた。挨拶などのマナーの意識の高まりが見られる反面、時間の意識や身だしなみなど徹底できていない部分も見られているため、指導の徹底と合わせて、児童の実態に即して校則の見直しを柔軟に行っていく。

・A4「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」について、教員の肯定的回答は、100 ポイントで数値指標を上回った。さらには保護者や地域住民の肯定的回答も増加している。代表委員児童が一条中生徒と合同であいさつ運動を実施したり、学年ごとに立哨してあいさつ運動をしたりなどあいさつ運動の強化により、あいさつの輪が広がっている。また、学級内だけでなく様々な場面で多くの教師からあいさつの仕方について指導を受けることで、児童一人ひとりが時と場に応じたあいさつの仕方について理解するきっかけとなった。

・A14「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」について保護者の肯定的回答は 86.7 ポイントとなり、数値指標を上回った。今年は相手の気持ちを考えた言葉掛け「ふわふわ言葉とチクチク言葉」をテーマにいじめゼロ強調月間を 2 回実施した。いじめ根絶に向けて、教職員それぞれがいじめは許されない行為だということを指導し、さらには委員会による啓発の場面を設定したり、学級で友達への言葉掛けについて話し合っ てる掲示物を作成したりなど、児童主体の活動を多く盛り込

んだことで、児童自身のいじめ根絶に向けた意識の高まりがみられ、いじめ発生件数も減少している。また、年間に2回設定した教育相談週間には、特別日課を設定し、学級担任が一人ひとりの児童と十分に話し合い、悩みに寄り添う機会となった。

・A15「教職員は、不登校を生まないように」について保護者の肯定的回答は、昨年度と比較して12.6ポイント上昇して93.0ポイントとなり数値指標を上回った。学級内で賞賛の場を多く設けることで、互いに認め合う温かい学級経営につながった。また、日常的に児童様子について教職員同士で共有することで、児童の困り感に早期に目を向けて対応にあたっていくことにつながった。

・B1「児童は、異年齢の友達と遊んだり、年少者をいたわりながら活動したりしている。」について、児童の肯定的回答は85.8ポイントで数値指標を上回った。縦割り班活動による清掃やわくわくタイムの実施が、日常的に行われ、それぞれの学年の応じた役割を理解し、積極的にかかわる様子が見られている。休み時間にも、上級生が下級生とともに遊ぶ姿が見られている。

・B2「教職員は、児童一人一人のよさをほめて伸ばす指導を行っている。」について、児童の肯定的回答は94.7ポイントで数値指標を上回った。校内表彰として今年は「おそうじ名人賞」を新たに設定し、児童の頑張りを学校全体で認める機会を増やした。学級担任に限らず、他の教職員や友達からも賞賛されることで、積極的な行動や規範意識の向上に大きくつながっている。学級内では当番や係活動の充実により、自分の得意なことを生かした活動を増やしていくことで、自己有用感の向上につながっている。

【健康（体力・保健・食・安全）】

・A6「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」について、児童の肯定的回答が92.9ポイントであり、数値目標を上回った。多くの児童が新型コロナウイルス感染症対策を実践しつつ、状況によってマスクを外して運動するなどの活動できるようになりつつある様子が見られた。

・保健委員会や運動委員会、給食委員会等で児童が自発的に運動や健康に関する呼びかけをする機会を今後も実践していくことで、体力・保健・食・安全についての関心を引き続き高めていく。

7 学校関係者評価

【学習面について】

- ・算数の習熟度別学習がよい。
- ・児童数に対して教室が狭い。余裕があるとよい。
- ・放課後子ども教室では、児童は元気はつらつでじっとしていないが、授業だときちんと着席していて、ほっとした。
- ・掲示物の絵や版画のクオリティが高く感心。

【生活面について】

・西小の児童は男女仲が良い。下級生の面倒見も良い。西小の環境は良いが、中学校に上がると不登校が増える。中学では学年が上がると不登校が増えることが気になっている。西小の子はよい子ばかりなのに残念。小中のギャップを埋める手段がないか。負けない心の育成。親子関係の問題もあるか。先生の努力は目に見えて分かるが、親の家庭教育が必要。親の意識を変えられる仕組みを国が作るべきではないか。

・毎日、来校しているので、挨拶がよくできるようになったことを感じている。皆さんに見てほしい。挨拶ができない児童は、その保護者が挨拶ができない。勉強以上に挨拶は大切。家庭で気を付けてほしい。

・子供と接して一番思うことは、自己肯定感が低いことである。自分をもっと大切にしてもらいたい。自分を大切にしなければ他人にも親切にできない。自己肯定感を高めるためには、何事があっても、指導後は褒めて終わりにしてほしい。

・小規模校で学級替えがなく心配はあるが、縦割り班活動をしている分、他学年に仲のよい子ができるのは西小のよいところだと思う。

・思いやりの心情を育てられるようにしてほしい。

【教職員について】

・教職員の肯定的割合が高く、教職員がよい姿勢で取り組んでいることが伝わる。児童も非常に落ち着いて授業に臨んでおり、先生も教室全体に目を配って授業を進めている。このまま進めばよい。

・働き方改革について、そもそも人員を増やすべきではないか。安全確保の面を考えると増やしていくべきである。

【保護者について】

・コロナ禍のため保護者同士で顔を見て意見を言い合う機会が少ない。必要な連絡事項のみで保護者同士の情報交換がない。顔を合わせる交流の機会を増やしてほしい。

・保護者にもっと学校を見てもらえれば活動の理解も深まると思う。

【ボランティア活動について】

・体育の跳び箱やマット運動などで、一人の先生が35人に近い児童の安全を見なければならぬのは相当な負担なのではないか。安全面での授業補助ボランティアがいるとよいのではないか。

・ミシンと版画ボランティアをしたが、作業の遅い児童への声のかけ方について教えてほしい。

【小中一貫教育について】

○「小中一貫教育・地域学校園」の取組は、子供同士の交流を増やす。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

・学習面においては「主体的・対話的で深い学び」になるよう、授業のめあてを明確にもち、協働的に学習しながら考えを深め、よりよい解を導けるようにする。授業の終末においては、振り返りの時間を重視し、主体的に学んでいけるようにしていく。そのような授業展開を行うことで、来年度も落ち着いて学習に臨めるようにしていく。

また、地域の教育力を生かした体験活動を重視し、発信力も付けていく。

・生活面においては、いじめは絶対に許さないという全校体制のもと、思いやりの心情の育成にさらに取り組む。挨拶がよくなるようになってきているので、来年度も継続できるよう指導していく。児童会をはじめ児童主体の活動を支援し、児童が生き生きと活動することができるようにする。朝わくや縦割り班活動の時間も確保する。

・健康・体力面においては、マスクの着用など自己管理できるよう、発達段階に応じて指導していく。委員会活動を活性化して健康や運動について呼びかける機会を増やし、児童の意識を高める。

○小中一貫・地域学校園では、教科指導の情報交換も深めていく。児童指導においても情報を共有し、不登校未然防止に繋げる。中学生とは、挨拶運動や運動会の協力依頼の他、清掃活動等でも交流を図っていく。

・児童が「学校が楽しい。」と感じ、成長を実感できるよう、教職員が一丸となって取り組んでいく。